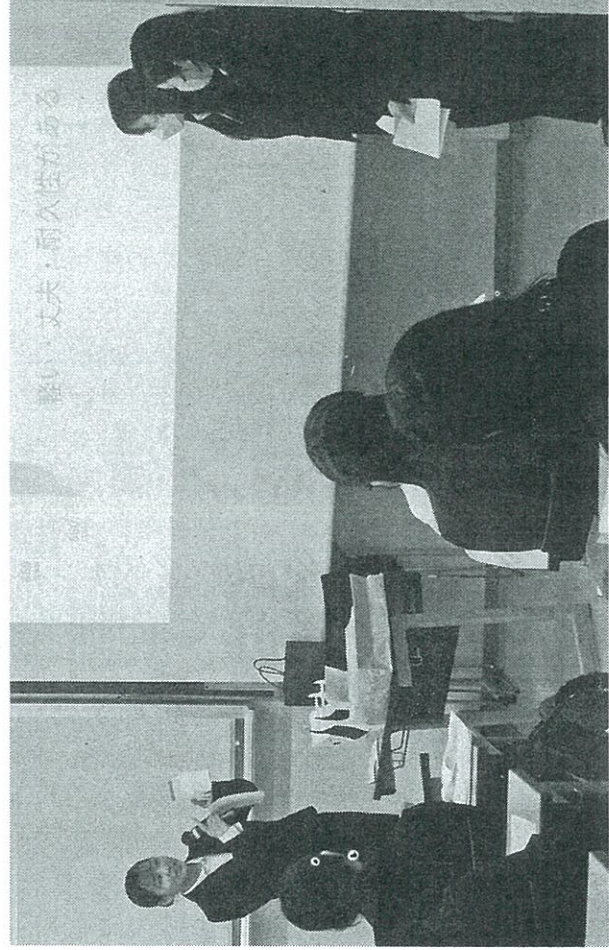


梅花女子大
高木包装

滑り台などプレゼン 産学連携、新たな発見も

段ボールケース製造販売の高木包装（葛城市、高木美香社長）と梅花女子大学（大阪府茨木市、長瀬修二学長）の産学連携による商品開発プレゼンテーション発表会が7月25日、同大キャンパスで開かれた。

同大では2011年から、学生が主体的にアイデアを出し合って企業と共同で商品開発に取り組む産学連携プロジェクトを推進している。今回のプロジェクトではテーマの企画立案、企画書作成、説得力あるプレゼン



段ボールを使った商品企画を提案する梅花女子大学の学生ら＝7月25日、大阪府茨木市宿久庄の梅花女子大学

段ボールで商品企画

技術の習得など全15回の講義が行われた。最終日の1日は子ども教育学科の学生3グループが段ボールを使った新商品のプレゼンテーションを行った。学生は滑り台シート、

働く車の乗り物、食育にもなる食べ物バスルなど、枠にとらわれない自由な発想で商品企画を提案した。

2年生の川西美希さんは「普段向けなく目にしていく段ボールがいろんな商品に変わる可能性を感じた」。宮本才菜さん（20）は「車椅子、松葉杖など医療用具などにも活用できると思った」と話した。

藤田佳久教授は「社会に出て考え行動する実践力

と、自分の考えを発信する力を身に付けてほしい」とアドバイスした。

総評で同社の杉本智史企画営業所長は「どの案も使

う側の視点で考えられている点が素晴らしい。新たな発見もたくさんあった」と評価した。